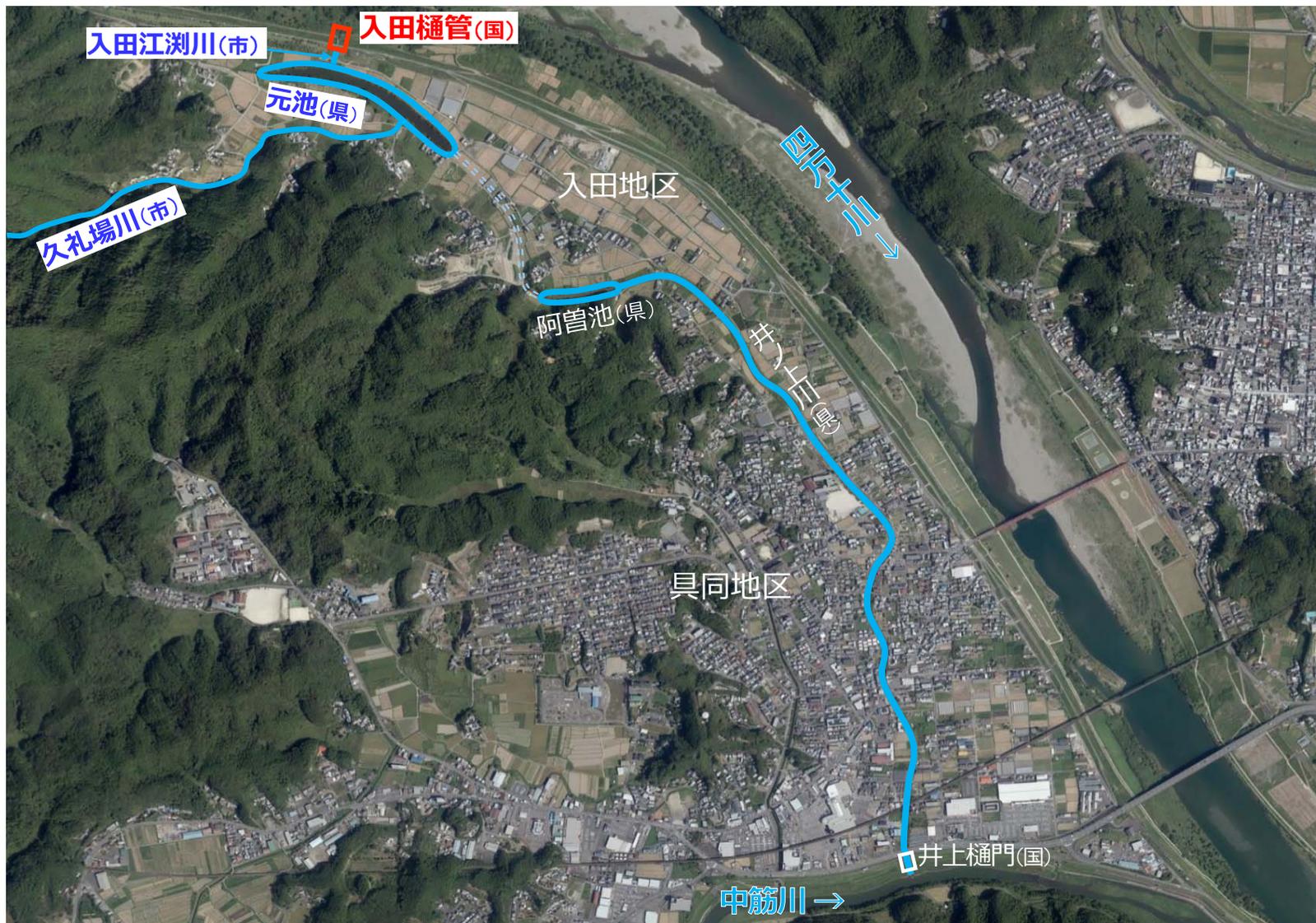


入田地区内水対策協議会 (第1回)会議資料

令和2年9月29日

1. 流域及び河川の概要

- 入田樋管の流域面積は、1.37km²で、流域の大半を山地および耕作地が占めており、平地部では圃場整備が進められている。
- 当該地区の内水は久礼場川(市管理)から元池(県管理)に集水され、元池から入田江湊川(市管理)を通じて入田樋管に排水されている。



2. 浸水被害の概要

- 元池の集水区域からの排水は、唯一の排水先である入田樋管を通じて四万十川へ排水されている。
- 入田樋管の通水断面は狭小で排水能力が低いため、洪水時には元池が増水して浸水被害を生じさせながら下流へ流出し、井ノ上川沿川の氾濫にも影響を及ぼしている。



3.入田樋管の概要

入田樋管は、四万十川支川入田江渚(にゆうたえぶち)川の排水及び四万十川からの逆流防止対策として設置された排水施設である。

設置年:昭和11年

樋管延長:L=38m

樋管断面:W=0.9m H=1.2m 1門



4.入田樋管の老朽化状況

入田樋管は設置後84年が経過し、老朽化により函渠内に多数のクラックや頂版のズレ等が生じている。

地震時には樋管のみならず、堤防の沈下等を引き起こすことが危惧されている。

函渠内のクラック



函渠内のクラック



頂版のズレ



頂版のズレ



5.入田地区内水対策(高知県)

●放水路の整備(元池～入田樋門まで)

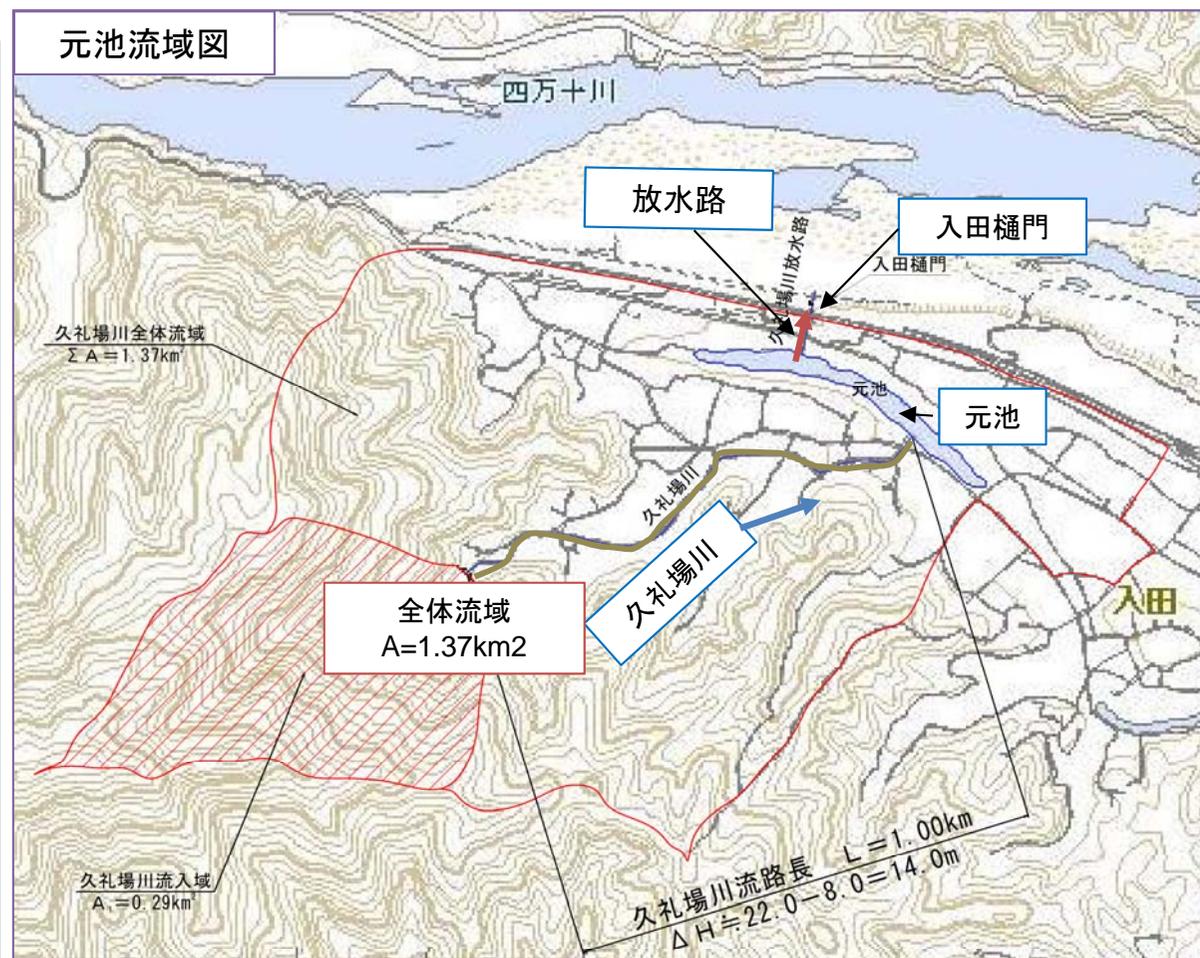
・H31年度に概略設計を実施

◇元池の現況

流域面積	1.37km ²
流入河川等	久礼場川(準用河川) 圃場からの排水6箇所
流出先	入田樋門から四万十川

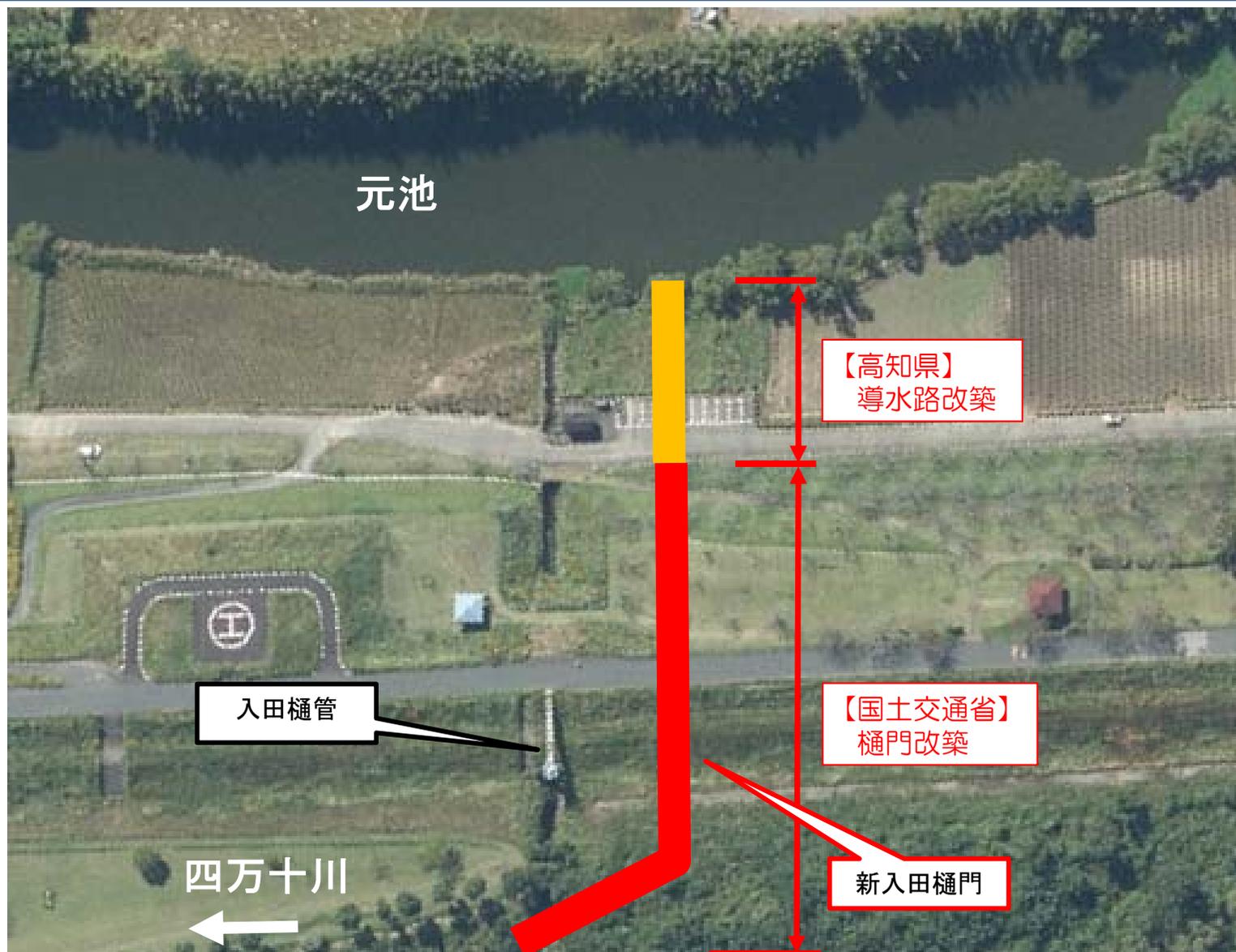
◇整備計画

- ・市街地を含まない流域であり、1/10年確率 $Q=33\text{m}^3/\text{s}$ を計画高水流量とする
- ・放水路詳細設計は $Q=35\text{m}^3/\text{s}$ で検討中
- ・工事着手は今後国土交通省と工程調整のうえ決定する



6.入田地区内水対策(国土交通省・高知県)

- ・計画高水流量 $Q=35\text{m}^3/\text{s}$ ・計画雨量確率 1/10
- ・国土交通省:樋門改築
- ・高知県:導水路改築



7. ソフト対策（四万十市）

- ・ 内水対策整備後の「対策効果の維持」や「避難体制の充実」、「流域住民の防災意識の向上」を図るためソフト対策を実施する。

◇土地利用に関すること

- ・ 住家の建築における規制
宅地化等により浸水リスクが高まらないよう、農地から宅地への転用規制によって対策効果の維持を図る。

◇保水区域の保全

- ・ 入田地区の農地の適正な保全
農事組合法人への支援等を通じて、農地の保全を図ることで保水機能の維持を図る。

◇防災情報の提供

- ・ ウェブサイト等を活用した防災情報の提供
「YAHOO!防災速報」や「ライン」などのアプリを活用して、これまでの情報伝達手段を補完して洪水時の警戒避難体制の充実を図る。
- ・ 防災情報無線の有効活用
防災行政無線の戸別受信機を貸与することで、より確実に防災情報を取得できるように努める。

◇防災学習会等の実施

- ・ 防災学習会の実施
「ハザードマップ」や「災害避難カード」を活用した学習会等を実施して、地域住民の防災意識の醸成を図る。
- ・ 防災訓練の実施
避難所開設やロープワークなどの防災訓練を行い、地域住民の防災力の向上を図る。